

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 岡山県岡山市北区内山下2-4-6
管理機関名 岡山県教育委員会
代表者名 教育長 鍵本 芳明

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日） ～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 岡山県立岡山城東高等学校

学校長名 前川 隆弘

類型 グローカル型

3 研究開発名

「ステージは『世界』だ!」～岡山発グローバルリーダーの育成～

4 研究開発概要

学校設定科目「学類コア科目」と総合的な探究の時間「GLOBAL I」「GLOBAL II」を教科横断的に連動させ、地域と連携して、郷土岡山の地域課題を踏まえ、創造的・批判的思考力を育成しながら、本校の類型である学類の専門性を生かした課題研究に取り組む。並行して、海外研修の充実、留学の促進、海外姉妹校等からの訪問の受け入れや英語教育の改善により、グローバルな視野と多様性の理解、高度な英語運用能力を育成する。また、学類の専門性を生かした地域ニーズに基づくボランティア活動、生徒会活動の活性化により、自主性・自律性を育成する取組を強化し、持続可能な郷土岡山の実現に向けて、将来、地域社会を支えたり、国際社会で活躍したりする「岡山発グローバルリーダー」の育成カリキュラムを開発する。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
岡本 弥彦	岡山理科大学・ 教育推進機構 教職支援センター教授	課題研究の手法に関する指導
小川 正人	環太平洋大学・副学長	グローバル人材育成や探究学習に関する指導
神崎 浩二	岡山県経済団体連絡協議会・事務局長	産業界が高等学校に求める教育の在り方に関する知見
国定 啓人	山陽新聞社編集局・局次長	グローバルな社会課題、地域課題に関する知見
杉山 慎策	中国学園大学・中国短期大学・副学長	高度な英語力の育成に関する指導
谷一 尚	一般財団法人林原美術館・館長 山陽学園大学・副学長	地域文化に関する知見、グローバル人材育成に関する指導

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
岡山県	知 事・伊原木 隆太
岡山市	市 長・大森 雅夫
岡山県経済団体連絡協議会	座 長・中島 博
岡山大学	学 長・槇野 博史
岡山県立岡山城東高等学校	校 長・前川 隆弘
岡山県教育委員会	教育長・鍵本 芳明

8 カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家 海外交流アドバイザー	朴 浣	岡山県県民生活部国際課国際交流推進員	県庁職員の業務の一環として
	アラン・チャンブリス	岡山県県民生活部国際課国際交流推進員	県庁職員の業務の一環として
	大塚 崇史	岡山県教育庁高校教育課指導主事（主幹）	県庁職員の業務の一環として
地域協働学習実施支援員	木科 孝夫	岡山県教育庁生涯学習課社会教育主事（総括主幹）	県庁職員の業務の一環として
	大塚 崇史	岡山県教育庁高校教育課指導主事（主幹）	県庁職員の業務の一環として

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム 会議の実施				1回			1回					1回
海外交流に関する 教育への支援				1回			1回					1回
学校での地域協働 学習への支援	1回			1回				1回			1回	
運営指導委員会の 実施							1回					1回

(2) 実績の説明

① コンソーシアムについて

○令和3年7月1日（木） 第1回会議（オンライン開催）

○令和3年10月12日（火） 第2回会議 ※第1回運営指導委員会と同日実施

○令和4年3月17日（木） 第3回会議 ※第2回運営指導委員会と同日実施

- ・第1回については、5月に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、日程を7月1日に延期の上、オンライン会議に変更して実施した。
- ・学校が今年度、及び3年間の指定期間における取組の成果と課題、次年度以降の取組の展望について説明し、コンソーシアム各機関から、自らが関わった取組の報告や、学校の説明に対して、3年間の総括、次年度以降の取組に対する意見や、今後の支援等の提案がなされた。

② カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

○コンソーシアム運営会議に参加し、海外研修中止に伴う代替のオンラインプログラムの実施等について検討するとともに、学校側担当者と協議を行った。

③ 地域協働学習実施支援員について

○企業訪問のコロナ禍における実施について、学校とコンソーシアム機関である岡山県経済団体連絡協議会と連絡、相談を行った。

○令和4年2月3日実施の課題研究発表会において、生徒の研究発表について指導助言を行った。

④ 運営指導委員会について

○令和3年10月12日（火） 第1回会議 ※第2回コンソーシアム運営会議と同日実施

○令和4年3月17日（木） 第2回会議 ※第3回コンソーシアム運営会議と同日実施

- ・学校が今年度、及び3年間の指定期間における取組の成果と課題、次年度以降の取組の展望について説明し、各委員から、次年度からの新教育課程を意識したカリキュラムへの接続や、探究活動と教科学習との往還、キャリア教育の充実など今後の取組に対する具体的な指導、助言を受けた。

⑤ 管理機関における主体的な取組について

(ア) 国費に上乗せした独自の支援や取組の実施、教員の人事面における配慮等

専門性を考慮した教員配置やALTの重点的配置、語学指導の充実のための非常勤ネイティブ教員配置の充実等、学校内の教員体制における人的な支援を継続して行っている。

(イ) 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

管理機関と岡山大学は、本事業に関する連携協定を締結し、取組の強化を図っている。コンソーシアム各機関についても、本事業の様々な取組に関する連携体制を構築した。

(ウ) 事業終了後の自走を見据えた取組について

岡山県教育委員会では、本事業における成果を県内の高等学校に広く普及していくとともに、引き続き、グローバルな視野に立って地域社会を支える人材を育成する拠点校としての機能を岡山城東高等学校に担わせるため、本事業で構築したコンソーシアム機能の継続や、取組の更なる充実を図っていくための県独自の予算措置を講じる。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営会議の実施		1回					1回					1回
運営指導委員会							1回					1回
教育改革推進委員会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
GLOBAL I の実施			5回	1回			4回	5回	2回	5回	2回	
GLOBAL I のアンケート (生徒)											1回	
GLOBAL II の実施	5回	5回	8回	3回		6回	5回	7回	4回	5回	4回	
GLOBAL II のアンケート (生徒)											1回	
リサーチスキル学習			5回									
講演会の実施		1回	1回	1回			1回					
企業訪問					6回		1回					
カリキュラム・マネジメント委員会	1回	1回				1回	1回	1回	1回		1回	
GPS-Academic (1年次・2年次)									1回			
外国語指導に係る研究授業			1回				1回	1回	1回	2回		
外国語科教科会議	2回	3回	4回	2回	1回	1回	2回	4回	1回	3回	1回	2回
外国人留学生との交流				1回								2回
全学類の専門性を生かした社会貢献活動			1回	1回	1回	2回	2回	2回	1回	2回	1回	1回
生徒会活動や委員会活動の活性化		1回	2回	3回	2回	4回	3回	5回	4回	1回	1回	1回

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

研究指定校では、目指す人材像を「グローバルな視点を持ちながら地域に根差し地域社会を支える人材」「郷土や日本への貢献意識を持ちながら国際社会で活躍する人材」と設定し、持続可能な郷土岡山の実現に向けて「地域密着の課題研究」「異文化交流の深化」「自主性・自律性を育成する取組」の3つを活動の柱として研究開発に取り組んでいる。

【柱1】地域密着の課題研究では、1年次生(全員)は「GLOBAL I」(総合的な探究の時

間1単位)で取組を進めた。年度の前半には教科横断的なリサーチスキル学習(以下「スキル学習」という。)を取り入れ、課題研究に必要な研究手法の基礎を学習した。8月を中心に企業訪問を実施し、地元企業のSDGsに対する取組を知ること、企業から見た地域の課題を知ること、課題研究に繋げるとともに、自分の将来を考えることを目標とした。9月以降、グループに分かれSDGsに関連する研究テーマで課題研究を実施した。

2年次生(全員)は「GLOBALⅡ」(総合的な探究の時間2単位)と「学類コア科目」(学類ごとの学校設定科目1単位)を連動させ、学類ごとにグループを編成し、各学類の特徴や専門性を生かした探究活動を進めた。教科・科目の知識を学びながら世界の諸地域の文化や生活について幅広い教養を身に付けられるよう、地域におけるフィールドワークを幅広く実施した。

3年次生(選択者)は「GLOBALⅢ」(学校設定科目2単位)で、1～2年次生までの課題研究をさらに深化させ、生徒個人の在り方・生き方に関わるような探究課題を設定し、個人での課題研究を実施した。

【柱2】異文化交流の深化では、高度な英語運用能力やグローバルな視野の育成と多様性の理解を目的としたディスカッション、ディベート、リスニング、スピーキングを重視した授業改善を行うため、指導者として大学教員を招聘し、校内教員研修や公開授業を実施した。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止となった海外研修の代替として、オンラインを活用して海外研修を導入し、生徒の英語による課題研究の取組も行いながら実用的な英語運用能力を活用できる場を設定した。

【柱3】自主性・自律性を育成する取組では、社会貢献活動、ボランティア活動等の体験活動を通じて社会の一員としての役割を果たすことにより、社会の構成員としての自覚を持ち、自分が価値のある大切な存在であることを実感させたり自己肯定感を高めさせたりした。学類の専門性を活用したボランティア活動についても、これまでの取組を踏まえて実践し、学校の活動と有志の活動の2つのカテゴリーに分けて実施した。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け
(各教科・科目や総合的な探究の時間、学校設定教科・科目等)

(a)「GLOBALⅠ」:総合的な探究の時間(1単位)

- ・教科横断的なリサーチスキル学習
- ・県内企業訪問でSDGs、地域課題、自分の将来を考える学習
- ・SDGsの17のゴールを参考に地域課題やグローバルの視点を踏まえた課題研究

(b)「GLOBALⅡ」:総合的な探究の時間(2単位)、「学類コア科目」:学校設定科目(1単位)

- ・「GLOBALⅡ」と「学類コア科目」を教科横断的に連動させ、学類の専門性を生かした課題研究

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

「GLOBALⅠ」において1年次の担任と各教科の教員が連携し、課題研究の取組が充実するよう、スキル学習を行っている。今年度の入学生から一人一台端末のiPadを導入し、スキル学習や課題研究で活用した。新たな取組として、経済産業省による「RESAS出前講座」をオンラインで受講し、生徒は講師の説明を受けながら自分のiPadを操作し、統計スキルを高めることができた。数学科と情報科が連携し、1年次生全員に統計グラフコンテストへの応

募作品を作成させ、優秀な 23 作品を応募した。

- ・ 研究手法・文献調査：研究手法の種類と文献調査の仕方（地歴科担当）
- ・ 仮説・実験・検証ガイダンス：仮説を立てた上での実験、検証（理科担当）
- ・ シンキングツール：シンキングツールの種類と効果的な使い方（情報・外国語・家庭・芸術科担当）
- ・ 研究倫理・インタビュー：結論の導き方やインタビュー法（国語・数学科担当）
- ・ 統計（RESAS の活用法）：統計スキル学習（数学・情報科担当）

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラム・マネジメント委員会を設置し、教育課程全体をマネジメントするとともに、その下部組織としてカリキュラム・マネジメント小委員会、カリキュラム開発係及びグローバル係が各取組の成果、課題等の分析を行っている。学校自己評価において、「城東高校の授業は主体的な学びを促すように工夫している」「城東高校は、他者と協力してさまざまな課題を解決する力がつく学校である」「城東高校は授業や学校行事、講演会などを通じてグローバルな視野を育てようとしている」の質問項目について、今年度も1年次生が高い評価であり、本事業の目的を理解した上で学習活動に取り組んでいる。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

学校全体で事業に取り組めるように次のとおり校内組織を編成し、主任と係が連携をとり研究を実施している。

係名	主任	係
カリキュラム開発係	教務課長補佐	教務課長、指導教諭、学類主任
地域連携係	生徒課長	生徒課社会貢献係、学類主任、年次事業担当、地域連携担当
国際交流係	国際課長	国際課
外国語教育推進係	外国語科研究主任	外国語科、外国語科指導教諭
情報発信係	総務課長	総務課
記録係	図書文化課長	図書文化課、進路指導課、事務室
会計係	事務室	事務室

⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

コンソーシアム運営会議、運営指導委員会への参加や、適宜来校によって、企画内容への指導助言や研究開発の推進のため、コンソーシアム各機関との連絡・調整を行った。

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

毎月、コアメンバーが出席する教育改革推進委員会を開催し、本事業についての進捗状況の確認や協議を行っている。

（コアメンバー）

校長、副校長、教頭、事務部長、主幹教諭、教務課長、学類主任（人文社会・理数・国際教養・音楽）、年次主任

(必要に応じて出席するメンバー)

カリキュラム開発係主任、地域連携係主任、国際交流係主任、外国語教育推進係主任
情報発信係主任、記録係主任、会計係主任

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

年3回開催されるコンソーシアム運営会議において、コンソーシアム各機関からは学校の説明を踏まえ、今後の事業の進め方や目指す人材の育成に繋がる取組の提案などカリキュラム開発に関して積極的な意見をいただいた。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

課題研究では年2回、岡山大学の教員から生徒の研究内容について指導助言を受けた。今年度は、1年次生を対象に探究活動の意義や探究のプロセスについて理解を深めさせ、探究活動や課題研究に意欲的に取り組ませるために、運営指導委員の講師による課題研究講演会を実施した。

また、年2回の運営指導委員会では、それぞれの専門的見地から取組について広く指導助言を受け、取組に反映させた。

⑩類型ごとの趣旨に応じた取組について

グローバル型の「グローバルな視点を持って地域を支えるリーダーの育成」という点を踏まえ、1年次では、課題研究においてSDGsの17のゴールに関連するグローバルな社会課題を研究テーマに設定し、研究を実践した。企業訪問において、生徒がそれぞれの興味関心、課題意識、進路志望を基に訪問する企業を選択し、事前学習を行った上で実施した。

2年次では、4つの学類のコア科目ごとに合計10グループを編成し、さらに各グループを数班に分けて課題研究に取り組んだ。課題研究の質的向上を図るため、オンラインを含めたフィールドワークも実施し、グローバルな視点を持ちながらより柔軟な発想で地域課題に対する解決策を追究させた。

⑪成果の普及方法・実績について

2月3日には研究校で課題研究発表会を開催し、年次の代表グループが研究成果を発表した。さらに同日、研究成果や課題について報告する研究成果報告会を、県内の教職員や事業関係者を対象に実施した。3月5日には県教育委員会が主催する「Well-being フォーラム」において、1年次の代表生徒1グループがプレゼンテーション発表を行った。そのほか、「2021年度全国高校生フォーラム」、「Glocal High School Meetings 2022」、「WWL・SGH×探究甲子園」、「高校生探究フォーラム（県教育委員会主催）」、「おかやまESDフォーラム2021（岡山市主催）」においても生徒が課題研究の発表を行っている。

3月に研究開発実施報告書を作成し、県内高等学校及び県外研究指定校に送付するとともに、岡山県教育庁のホームページに公開し、成果の普及に努めた。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 地域密着の課題研究

1年次の「GLOBAL I」において、スキル学習、SDGs講演会、企業訪問、課題研究講演会、課題研究発表会の一連の流れが確立し、「総合的な探究の時間」を軸に新学習指導要領の趣旨を

踏まえたカリキュラム開発に繋がっている。全生徒に統計グラフコンクールへの応募作品を作成させ、優秀な作品を応募するなど、数学科と情報科が連携した教科横断的な学びにより、学習の意欲が高まっている。特に、他者と協力した課題解決、グローバルな視野育成の生徒評価が高い。「RESAS 出前講座」や課題研究などで、一人一台端末の活用が図られ、情報活用能力の育成も図られつつある。さらに効果的な一人一台端末の活用を研究する。

2年次の「GLOBALⅡ」において、SGHでの成果や昨年度の実施も踏まえ、学類ごとにグループを編成し、「学類コア科目」を研究分野の柱としたことで、学類の特色を生かした研究テーマを設定でき、生徒の主体的な学びの育成に繋がった。また、教科・科目の知識を学びながら世界の諸地域の文化や生活について幅広い教養を身に付けられるよう、オンラインも含め外部講師の招聘や地域におけるフィールドワークを幅広く実施した。発表の場を多く確保し、表現力の育成などに繋がった。

3年次の「GLOBALⅢ」において、希望者選択の個人研究とし、1～2年次生までの課題研究をさらに深化させ、生徒個人の在り方・生き方に関わるような探究課題を設定した課題研究を行った。

12月に実施したGPS-Academic調査の結果から、「批判的思考力」の上位評価（S及びA）の割合は1年次が30%、2年次が38%（昨年度1年次27%）であり、「創造的思考力」の上位評価の割合は1年次が28%、2年次が29%（昨年度1年次19%）であった。目標とする30%を概ね達成できている。また、2年次生については、昨年度から10ポイント以上の伸びが見られ、教科・科目の成績も好調であり、課題研究においても「批判的思考力」「創造的思考力」の育成に効果が出ていると考えられる。

「将来、地元で暮らしたいか」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合は44%（1年次49%、2年次42%、3年次40%）であり、昨年度の42%をやや上回った。1年次では地域密着の課題研究や地元企業への訪問を行っていることが要因と考えられる。年次が上がるにつれて、フィールドワーク、課題研究、コア科目等において、グローバル視点の要素が増加するため、世界や社会全体に興味関心が増えていることがわかる。

（2）異文化交流の深化

英語の公開授業は3回の計画が4回になり、校内研修として2回の授業を公開した。

日 時	科 目	授 業 内 容
6月23日(水)	Practical Writing (3年次国際教養学類)	エッセイライティングを中心とした 4技能統合型言語活動
10月4日(月)	コミュニケーション英語Ⅱ(2年次)	リテリングを中心とした4技能統合 型言語活動
11月1日(月)	英語表現Ⅰ(1年次) *指導教諭による公開授業と兼ねる	文法知識の習得を中心とした4技能 統合型言語活動
12月21日(火)	コミュニケーション英語Ⅰ(1年次) *外国語指導助手との協同授業推進研修会と兼ねる	ディベート
1月17日(月)	コミュニケーション英語Ⅲ(2年次) *校内のみ	サマリーライティングを中心とした 4技能統合型言語活動
1月31日(月)	英語表現Ⅱ(2年次) *校内のみ	パラグラフライティングを中心とし た4技能統合型言語活動

CAN-DO リストを生徒に配付し、各年次の達成目標を提示している。授業立案においては、CAN-DO リストを基に、継続的な活動と各レッスンに特化できる活動を担当者が考え年次内での打合せを行い、外国語科会議や公開授業等で共有を図り、“JOTO STYLE”と呼ばれる授業形態を確立した。英語のメモを参考に生徒自身の言葉で英文の内容を筆記や口頭で即座にまとめさせる活動を継続することにより、指示されたテーマや語数で英文を書いたり、口頭で発表したり、討論したりする力を身に付けさせた。

英語スピーキングテストについては、1・2年次生を対象に7月と3月の2回、2年次生は対面形式で、1年次生はiPadを活用して実施することができた。iPadを活用すると生徒自身が自分の発言内容を確認でき、次へのステップへと繋げることができた。

異文化交流を深化する取組として実施していた学類研修は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となり、その代替として今年度は、国際教養学類生徒を対象に「GLOBAL ENGAGEMENT PROGRAM」としてハーバード大学生とのオンライン交流を3月15日（火）～18日（金）に実施することができた。グローバルリーダーシップを理解し、思考力や英語コミュニケーション能力の向上や新たな知識の習得が目的であった。また、1年次生で2年次に国際教養学類へ進級する生徒を対象に、岡山大学留学生とのオンライン交流を7月27日（火）と3月3日（木）に実施した。英語を母国語としない留学生と英語で交流する機会を得て、自分の英語が伝わる喜びと更に学びたいという気持ちが増した。

このような様々な取組を通して、生徒は授業で積極的に英語を話し、相手の発言をしっかりと聞くなど、あらゆる言語活動を楽しんでいる。スピーキング能力を向上させるにとどまらず、英作文コンテスト等の入賞も増えている。CEFRのB1レベル以上の生徒の割合は、3年次生が44.1%、2年次生が18.8%、1年次生12.5%となっており、成果を挙げている。

(3) 自主性・自律性を育成する取組

社会貢献活動では学校が主催する活動と有志（生徒会・部活動・個人）による活動と大きく分けて2つのカテゴリで実施した。

学校が主催する活動は、1年次生全員を参加対象とした。昨年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、あわじ宿泊研修清掃活動、小学生学習支援、スポーツ支援ボランティアは中止となったが、「献活デー」（社会貢献活動の日）では、生徒320名を2日間に分けて近隣の8カ所の施設で活動を行った。活動内容は、介護施設等とオンラインによる高齢者との交流や施設の清掃・整備・備品の消毒、幼稚園・保育園ではおもちゃの消毒作業や教材作成など体験した。

有志による活動については、部活動単位での企業との協働ボランティアや有志募集のボランティア活動など、参加する生徒の数が、昨年226名から今年度は360名に増加した。清掃活動、小学生登校支援、募金活動、ヘアドネーションなど、生徒たちが今できることを考え、多岐にわたる活動を実践することができた。中でも学類に特化した活動では、地元企業と協働して音楽学類の生徒や関連する部活動の生徒が、こども園と音楽交流会を行い、地元地域へ貢献することができた。

リーダー育成に係る生徒会活動や委員会活動では、生徒が企画・実践することを前提としたことで、資料作成や各行事の企画運営、司会進行などを生徒たちが主体的に行い、リーダーとなった生徒たちは権限と責務を自覚することができた。その結果、リモートを活用した情報交換会、役員選挙、他校との交流会が実現し、委員会活動では、代表委員会をはじめ各リーダーが校内における課題を解決するための活動を実践し、昨年の実践活動12件が今年度19件に増加した。また、今年度の後半では、ジェンダーレス化に関する課題研究に取り組んでいた生徒

たちが有志で「制服を考える会」を立ち上げ、生徒会執行部と協力して、制服のジェンダーレス化を目指して取り組んでいる。このように生徒が自主的・主体的に取り組める活動は、生徒の自治意識を向上させるとともに生徒会活動の活性化に繋がっている。

1 2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 地域密着の課題研究

「GLOBAL I」、「GLOBAL II」、「学類コア科目」において、この3年間で岡山城東高校での課題研究のカリキュラムが形成されており、引き続きその取組を踏まえて実施する予定である。さらに、シラバスや評価方法の検証と改善、一層の教科横断を目指した指導の改善、総合的な探究の時間と特別活動の計画の完成を目指す。

生徒をより多面的に評価して変容を可視化できるようポートフォリオの充実を図り、指導と評価の一体化を進めていく。生徒一人一台端末の有効な活用も含め、ポートフォリオの充実に努めていく。

企業訪問は、SDGs への理解に効果的であった。引き続き、キャリア教育の観点を踏まえた取組を継続し、生徒が希望する訪問先を選択できるようにし、一層意欲的に取り組ませ課題研究が充実するようにする。

(2) 異文化交流の深化

スピーキング能力の向上を目標にすることにより、英語でやり取りする能力の向上にも繋げることができている。今後は、校内研修を充実させ授業の在り方や指導方法を絶えず共有し、生徒が4技能5領域に関する能力の到達度評価をすることができる自己評価シートの作成を目指し、iPadを有効活用する授業の研究も行う。

海外での各種研修については、新型コロナウイルス感染症の拡大で多くの研修が実施できなかったが様々なオンライン交流で代替することができた。しかし、海外で研修することを望んでいる生徒が殆どなので海外での研修計画を立て、留学生との対面での交流も計画する。

(3) 自主性・自律性を育成する取組

社会貢献活動については、これまで実践したボランティア活動を継続させるとともに、地元企業との協働を基盤に学類の特性を活かせるよう内容の充実を図る。単なる体験活動や奉仕活動にならないようワークシートを活用した事前指導と事後指導を取り入れ、道徳教育やキャリア教育に関連付けて教育的効果を高める。

リーダー育成に係る生徒会活動や委員会活動の活性化では、実践報告を地域やメディアへ向けて情報発信することで、新たな連携先を模索し協働で取り組める機会を構築する。そこには、部活動を関連付けて、それぞれの特性を十分に活かすための工夫を盛り込みたい。更には、ボランティア活動や探究活動と紐付けすることで横断的な取組に発展させることを目指す。

(4) その他

本事業の成果を踏まえて、次年度も継続する企業訪問、大学教員等の指導助言を受ける課題研究などが実施できるよう、またグローバル・リーダーを育成する拠点校としてグローバル人材の育成のためのカリキュラム開発ができるよう、県独自の予算措置を講じる。

【担当者】

担当課	岡山県教育庁高校教育課指導班	TEL	086-226-7585
氏名	大塚 崇史	FAX	086-224-2535
職名	指導主事(主幹)	e-mail	sido-koukou@pref.okayama.lg.jp